

# イノシシの生態

## 分布と生息環境

北海道と一部の離島を除き全国的に分布する。近年まで分布の空白域であった東北地方や北陸地方の多雪地においても、分布は急速に拡大している。また、以前から分布している地方でも、その分布域は広がる傾向にある。

本来は比較的人里近くに生息するため、人の生活圏とイノシシの生息適地が重なる。そのため、餌が多く身を隠せる水田耕作放棄地などは、イノシシにとって格好の生息環境となっている。

## 繁殖と行動特性

日本の大型ほ乳類の中で最も繁殖能力が高く、年1回の繁殖で4～5頭を出産、その約半数が成獣となる。繁殖力の高いイノシシを捕獲だけにたよって減少させることは難しい。

成獣は1m以上の跳躍力を持つが、通常は防護柵などの障害物に対しては、飛び越える前に警戒しながら近づき、安全を確認する。一方、上を越えるよりも、下をくぐって通り抜けようとする傾向がある。幼獣は15cm格子を通り抜け、成獣は20cm程度の隙間は潜り抜ける。

鼻は、鋭い嗅覚をもつ以外に、土を掘る、障害物を動かす時にも使われる。鼻で50～60kgの重さのものを簡単に持ち上げることができる。一方、鼻先は敏感で電気刺激などには弱い。

## 農作物被害の特徴と痕跡

反芻胃を持たないイノシシにとって、消化の良い農作物は格好の餌である。山に餌が少なくなる夏季に水田に侵入し、乳熟期をむかえるイネを食害するほか、踏み倒すことで大きな被害を出す。イネ以外には野菜、イモ類、マメ類、ムギ類なども食害する。シカやサルと異なり、農作物の地下部（根茎）も食害することが多い。また、ミカン、カキ、ブドウ、モモなどの果樹は地面に落ちた果実だけでなく、枝を折り食害することがある。特に堅果類の一つであるクリを好む。

その他、耕作放棄地のクズの根茎、竹林のタケノコも好む。直接農作物を食害する以外にも、雑食性であるため、ミミズ、昆虫の幼虫などの土壌動物を狙い、畦、茶畑などを掘り返す。

農用地周辺で見られるイノシシの痕跡として、足跡、掘り返し跡（畦など）、ヌタ場（水田耕作放棄地や竹林など）、食痕などがある。



足跡（副跡はつかないことも多い。 は進行方向）



イノシシの糞



ヌタ場（泥あび場：粘土質の土壤につくられることが多い）



イノシシによるイネの踏み倒し跡

以上の内容は「野生鳥獣被害防止マニュアル(イノシシ、シカ、サル) - 実践編 - 」(平成19年3月農林水産省生産局発行)から引用したものです。

## 県内の農作物被害状況

平成19年度野生鳥獣による農作物の被害状況調査の結果，被害金額は2,895.1万円で被害鳥獣の中で最も多い。また，調査を始めた平成3年（480万円）と比較すると約6倍にまで増加している。

市町村別では，10市町（白石市，角田市，丸森町，仙台市，川崎町，亘理町，山元町，大河原町，蔵王町，柴田町）から被害が報告された。

作物では，稲（1,661.7万円），イモ類（645.1万円），野菜（175.3万円），飼料作物（172.7万円），果樹（120.2万円）などが被害を受けている。